

験等々に実感を伴った思いが新鮮な感性で表現されていました。

それらは例えば、滝の下で仲間達と楽しむざわめき、激しい水の音や波しぶき、足下の水の透明感や涼しさ、そこから発するマイナスイオンまでを感じさせる情景であったり、学校の水道に映りこむ光や生活世界、通学路や校舎の廊下の日常風景に見いだした美の再発見があり、放課後の教室や玄関、そこでの先生や友人との何気ない会話の場面であったりします。

大人になって振り返ってみて初めて気がつく子どもの頃の宝物のような日々を、そこにある時からわかっていて愛おしんでいるかのような気持ちが感じられました。排水口に残るわずかな土から生えている雑草が、天に向かって伸びていこうとするたくましい生命力や、その葉の上で時を過ごしているてんとう虫に注がれる、生きとし生けるものを愛おしむ作者の眼差しが感じられます。多くの作品に、見逃してしまいがちな何気ない日常の中で再発見した美や魅力があり、これらこそ「造形的な見方」で得られた新たな視点なのかもしれません。

また、成長過程に見うけられる心の揺れ、思春期での悩み、理想と現実のギャップや不安、それらを乗り越えて前向きに歩んでいこうとする思いや、ネガティブな感情を何とか表現に昇華させようと模索する姿勢にも心打たれます。絵画に限らずデザインやコラージュ等の多様な表現方法、技法、画材も多種多様で、鉛筆のみで丹念に描き込まれた表現等にも作者の表現への熱量の高さが伺えました。

今後もこのバトンが引き継がれ、さらに発展していくことを祈念いたします。